

開講科目名 Course	家族法研究 / Family Law
時間割コード Course Code	15040
開講所属 Course Offered by	法学研究科修士課程 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2022年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	金 / Fri 1
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	近藤 久雄
科目区分 Course Group	企業関係法科目群
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	近藤 久雄 (法学部)
授業の目標	<p>市民生活を規律する民法の中で、家族関係を規律する民法第4編「親族」及び第5編「相続」を学びます。夫婦・親子関係、死後の家族の財産がどのように分配されるか等を、家族をめぐる法の基礎を学ぶことを目標とします。</p> <p>学習成果</p> <p>知識・理解の領域 家族法の基礎的知識の修得をめざします。 法的に夫婦になることの意味を理解することができます。 法的親子関係と生物学的な親子関係がなぜ一致しなことがあるのかを理解することができるようになります。</p> <p>相続の意味（被相続人間の意思の尊重、相続人の寄与・貢献、生活保障）を理解することができるようになります。</p> <p>思考判断の領域 家族法を通して法的思考能力（リーガル・マインド）を修得することをめざします。</p> <p>態度・志向性の領域 家族生活におけるトラブルを未然に防ぐこと（予防法学）ができるようになることを期待しています。</p>

授業の概要	<p>授業形態 対面授業にて行います。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況悪化により、遠隔授業（Zoom）に変更する事も考えられます。G-mail、Google classroomでチェックする習慣を身につけておいて下さい。</p> <p>授業概要 憲法第24条の『個人の尊厳と両性の本質的平等』の精神を具体化した現行家族法は、50年余りを経過しましたが、現在、大きな変化の中にあります。96年2月に公表された「民法改正要項案」では、(1)男女間に区別のある婚姻最低年齢を18歳とする、(2)女性についてのみ適用される再婚禁止期間の短縮、(3)選択的夫婦別氏の導入、(4)離婚原因の明確化（積極的破綻主義を導入し、5年の別居で離婚を認める）、(5)非嫡出子の相続分の同等化など、があげられています。さらに、人工授精子、体外受精子を含めた、子の法的地位の安定のため、家族法の改正が論議されています。</p> <p>改正の前提には、価値観の多様化した社会にあって、家族をめぐる状況が変化してきたことがあげられます。高学歴化、共働きの増加、晩婚化、少子化、高齢化、離婚の社会的承認、生殖医療技術・遺伝子解析技術の発達などが、それです。この前提にたつて、改正論議が行なわれていますが、このような問題は基本的には家族というものがどうあるべきか、ということにかかっているといえます。</p> <p>本講義では、家族の一人一人が個人として尊重され、男女が伝統的な役割分担にとらわれず、対等な立場で生活できる家族社会を作ることと考えてもらえればと思います。</p> <p>講義の進め方 事例問題を中心に講義を進めますので、多少の法的基礎知識を備えている必要があります。夫婦別氏、生殖医療と親子関係などについては現状をビデオで見てもらい法的問題を検討する予定です。関連条文を参照しながら講義をしますから、六法は必ず持参して下さい。</p> <p>質問への対応 質問には随時対応します。また、ゆっくり話をしたい場合には、オフィスアワーを利用して研究室を訪ねて下さい。</p> <p>準備学習 事前に資料を配布しますので、内容を把握しておいてください。また、資料に記載されたキーワードについて調べておいてください。学習時間は、予習復習で3時間は確保して下さい。この科目の位置づけについては、本学HPのナンバリングを参照して下さい。</p>
評価方法	<p>受講態度（10％）、小テスト（40％）、課題（50％）により評価します。評価を受けるには授業への3分の2以上の出席が必要です。遅刻は30分までとします。以後も入室は認めますが、出席にはなりません。2回の遅刻で1回の欠席となります。</p> <p>小テスト、課題の提出は、Google classroomを使用しますので、g-mailで確認する習慣をつけておいて下さい。</p>
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	<p>15回の講義を6回以上欠席すると、失格になります。</p> <p>2回の遅刻で1回の欠席となりますので、注意して下さい。</p>
授業計画	<p>第1回 家族法総論：今何が問題となっているのか 家族法の理念 個人の尊厳と両性の本質的平等（憲法24条） 準備学習 3時間</p> <p>第2回 婚姻1：法律婚の保護 準備学習 3時間</p> <p>第3回 婚姻2：非婚カップルの保護 準備学習 3時間</p> <p>第4回 離婚1：破綻主義の考え方 準備学習 3時間</p> <p>第5回 離婚2：家事調停における諸問題 準備学習 3時間</p> <p>第6回 親子関係1：実親子関係 準備学習 3時間</p> <p>第7回 親子関係2：養子親子関係 準備学習 3時間</p> <p>第8回 相続法総論：相続の意義 準備学習 3時間</p> <p>第9回 相続人と相続分 準備学習 3時間</p> <p>第10回 特別受益者の相続分・寄与分 準備学習 3時間</p> <p>第11回 遺産分割、相続の承認・放棄等 準備学習 3時間</p> <p>第12回 遺言：要件、遺贈、「相続させる」旨の遺言等 準備学習 3時間</p> <p>第13回 遺留分 準備学習 3時間</p> <p>第14回 相続法の改正について 準備学習 3時間</p> <p>第15回 まとめ：これからの家族法を考える 準備学習 3時間</p>
テキスト	<p>テキストは指定しませんが、図書館等で参考書は必ずチェックして下さい。</p> <p>六法は、必ず持参して下さい（六法の選定は、講義において指示します。）。</p>

参考書	<p>二宮周平『家族法 第5版』(新法学ライブラリ9) 新世社 親族と相続に関する基本的な法制度を中心に、判例、戸籍席例などの取り扱い、主要な争点に関する学説をまとめた教科書です。著者の研究者としての主張(家族を個人の幸福追求の場、自己実現を支援する場として捉え直す。勿論他人への配慮を伴ったうえで)がよくあらわれた本です。この点を理解したうえで読んで下さい。</p> <p>水野 紀子編『民法判例百選3 親族・相続』(別冊ジュリストNo.239) 有斐閣 家族法の代表的な判例を100件、収録してます。講義に出て来た判例は必ずチェックして下さい。</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	家庭裁判所の家事調停委員をつとめる教員が、家族関係をめぐる法的諸問題(夫婦、親子、遺産分割)の解決方法を、理論と実務の視点から解説することによって、単なる法的知識の習得にとどまらず、家族法を実践的に理解することに役立つ内容になっています。
質問への対応方法	質問には随時対応します。また、ゆっくり話をしたい場合には、オフィスアワーを利用して研究室を訪ねて下さい。
フィードバックの方法	小テストは、Google classroomを使用しますので、解答後は、直ちに評価を確認することが出来ます。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	事前に資料を配布しますので、内容を把握しておいてください。また、資料に記載されたキーワードについて調べておいてください。学習時間は、予習復習で3時間は確保して下さい。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	10.人や国の不平等をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 5.ジェンダー平等を実現しよう
SDGs 17の目標(11~17)	16.平和と公正をすべての人に
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	